

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 焼野小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、6 年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （１） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （３） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・ 焼野小学校では、6 年生 41 名

3 調査内容

（１）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・算数 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・算数 B】
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（２）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立焼野小学校

児童数

41

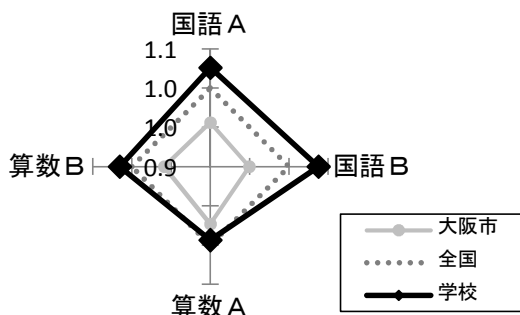
平均正答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	74.8	57.6	77.6	59.1
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

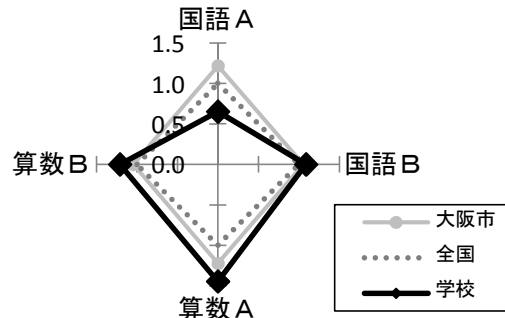
平均無解答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	1.5	10.0	1.3	5.2
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3

平均正答率（対全国比）



平均無解答率（対全国比）



結果の概要

平均正答率については、国語A・国語Bは全国平均より約2ポイント、算数Bは全国平均より約1ポイント上まわった。算数Aは全国平均より若干下回ったが、大阪市平均よりは1.6ポイント上まわった。しかし、無回答率については、国語B、算数A、算数Bについては大阪市平均より高く課題がみられる。

算数については、基本的な計算における正答率は高く無回答率も低いものの、情報の読み取りや論理的な思考が必要な文章問題については無回答率が高くなっている。解答するためのプロセスを断念してしまっているように思われる。国語についても、情報量が多くて多種多様な構成の問題では無回答率が高くなる。根気よく問題を読み取り解答できる力をつけることが課題である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

子どもたちは自尊感情も高く、規律ある授業に日々しっかり取り組んでいる。読書活動や読み聞かせ、児童の自主性を尊重した委員会活動、習熟度別少人数授業、メンターを活用した若手教員の育成、言語活動の充実を図るための組織的な研究推進など、学校が一丸となって教育活動に取り組んでいる成果があらわれている。「きいて・考えて・言葉に表す」授業への取り組みや、100字作文など要約しながら文章を書く学習訓練など、授業内外での基礎的・基本的な繰り返しによる反復学習を大切にしている。

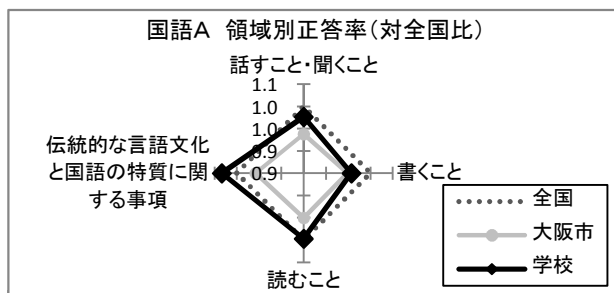
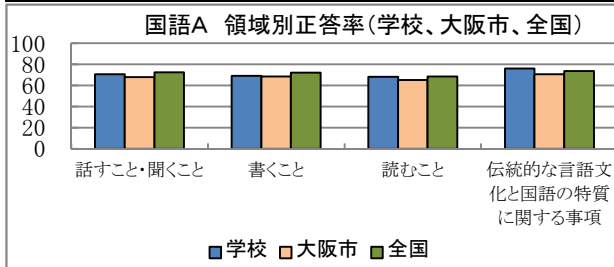
今回の全国学力・学習状況調査の結果をうけて、課題として明らかになった根気よく問題を読み取り解答できる力を全員がつけるためには、あらゆる問題に対応できるよう経験を積ませる学習を繰り返しながら、スモールステップや習熟度別少人数の授業による分かる授業をさらに進める。課題意識を学校全体で共有し、具体的な取り組みを重点的に実施していきたい。

【国語】

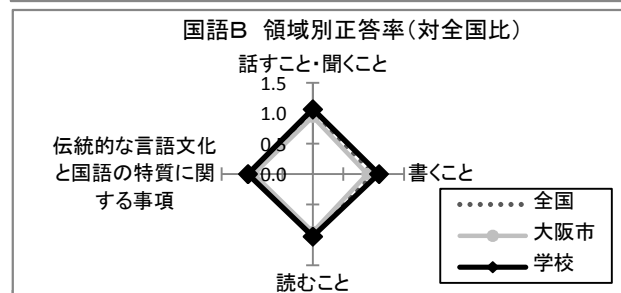
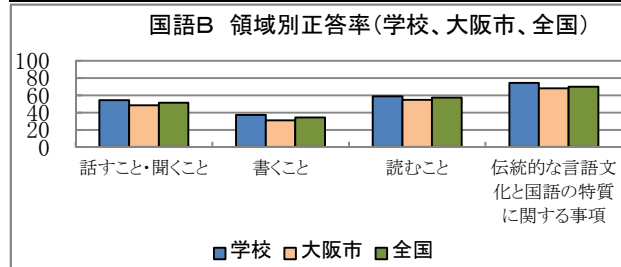
結果の概要

平均正答率は国語A・Bともに全国平均を上まわった。とくに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については約3ポイント上まわっている。児童質問紙からは、「考えの理由が分かるように書く」「資料を読み自分の考えを書く」と答えた児童については全国平均より少し低い。

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	70.7	67.9	72.4
	書くこと	3	69.1	68.5	72.2
	読むこと	2	68.3	65.1	68.5
	伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	12	76.2	70.6	73.7



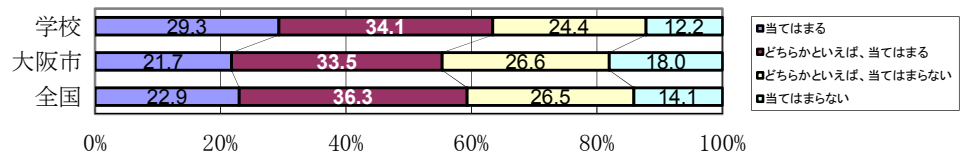
B 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	54.5	48.3	51.2
	書くこと	3	37.4	30.9	34.4
	読むこと	7	58.9	54.6	57.3
	伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	2	74.4	67.9	69.8



国語に関する「児童質問紙」

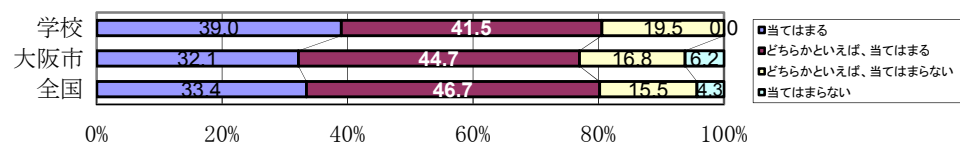
50

国語の勉強は好きですか



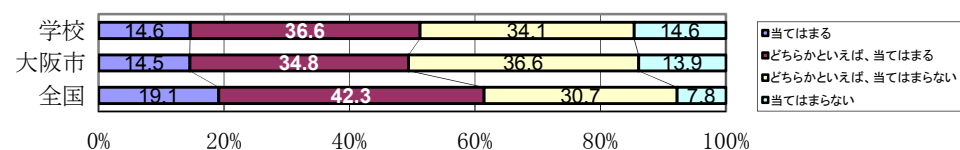
52

国語の授業の内容はよく分かりますか



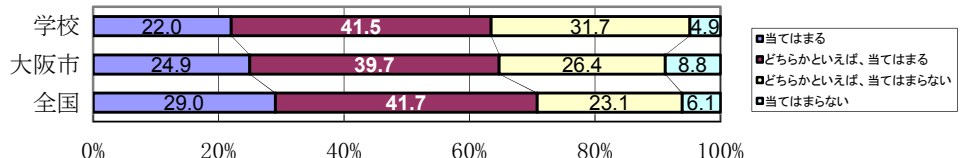
55

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

国語の基礎・基本的な事項である文の定義や構成を理解し、漢字の読み書きについても多くの児童が定着している。しかし、多くの資料から読み取り、自分の考えを整理して書くことに少し課題がある。

今後の取組

学年の段階に応じ授業において、自分の考えを明確にさせながら表現力を高めていく指導を進める。継続して目的や意図を明確にして具体的な文の構成や文体を指導していき、文章を編集でき、言語を操作する指導を充実させていく。また、さまざまな形態の問題に対応できる力をつけるために、基礎問題から発展問題へチャレンジする機会をできるだけ多くつくっていく。

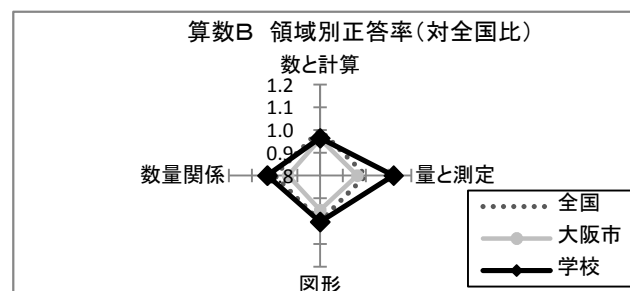
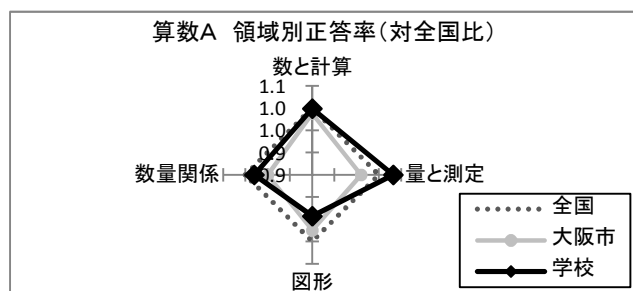
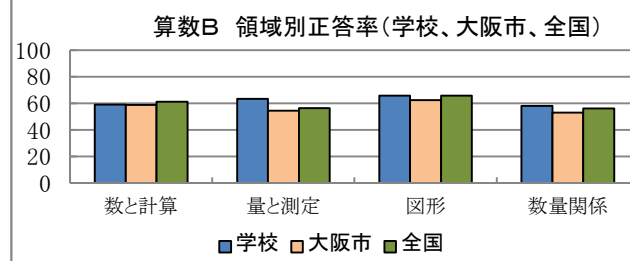
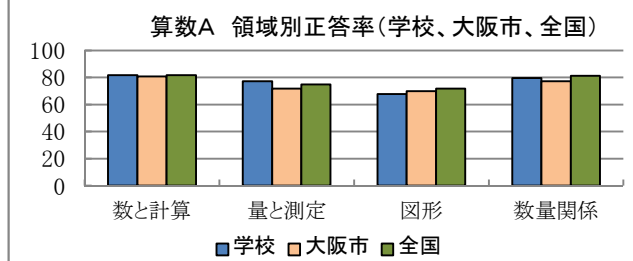
【算数】

結果の概要

算数Aの平均正答率はわずかに全国平均を下まわったが大阪市よりは上まわった。算数Bについては全国より上まわっているが、算数A・Bともに無回答率が高かった。児童質問紙からは、「算数の勉強は好き」と答え、「算数の公式やきまりのわけを理解しよう」「解き方や考え方が分かるようにノートに書く(92.7%)」と意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	81.7	80.8	81.8
	量と測定	3	77.2	71.8	74.8
	図形	4	67.7	70.0	71.8
	数量関係	3	79.7	77.2	81.3

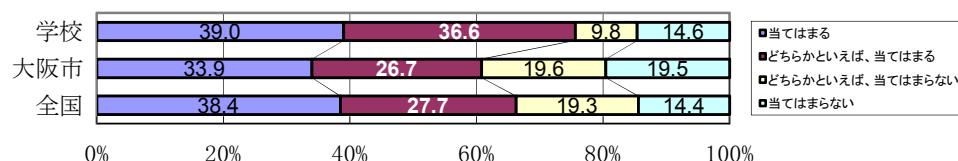
B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	59.1	58.9	61.3
	量と測定	5	63.4	54.4	56.5
	図形	1	65.9	62.5	65.7
	数量関係	5	58.0	52.9	56.2



算数に関する「児童質問紙」

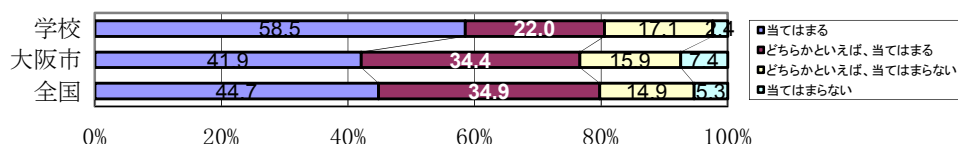
62

算数の勉強は好きですか



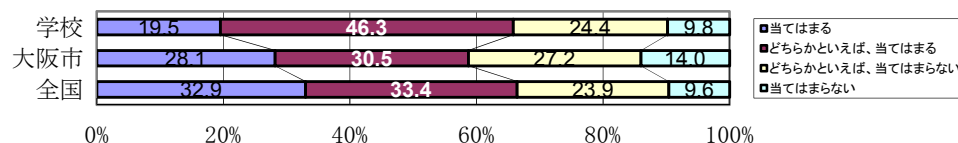
64

算数の授業の内容はよく分かりますか



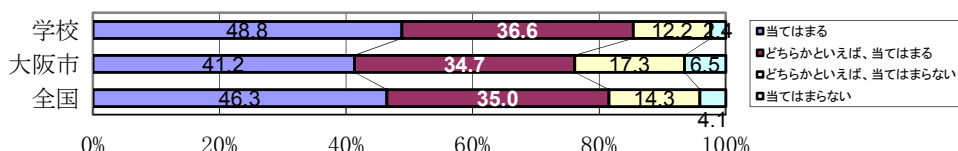
67

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



70

算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

基礎的・基本的な計算や式に表すことはできている。しかし、「数と計算」では計算のルールを知らなかったり、「図形」ではコンパスによる作業的活動を理解してなかったり、「数量関係」では場面から関係を式に表すことができずに解答できなかった児童がやや多い。より多くの多様な問題を会得し、問題の解決に必要な情報を的確に読み取る指導が必要である。

今後の取組

基礎的な計算やスキルについては、学習が確実に定着するように、スモールステップによるふり返り学習を繰り返したり、つまづきを早期にチェックし、個別学習による習得を図る。また、問題を解決するために、筋道を立てて考え、考えを説明したり記述したり、解決した過程を振りかえさせたり見直しさせる授業をさらに推進させる。

学びの充実に向けて(1)

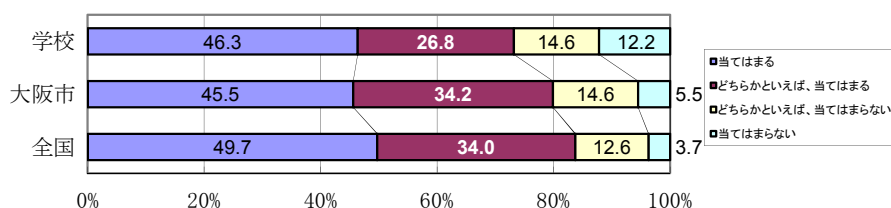
結果の概要

「今まで自分の考えを発表する機会が与えられていた」と思う児童や、「読書が好き」と思う児童が若干少ない。しかし、授業では、授業のはじめに「めあて」が示されていたと答える児童がほとんどで(95.2%)、目標を意識してしっかりと授業を受けて学習に取り組んでいたことがわかる。また、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行ったと答えた児童も多く(80.5%)、学習したことの定着がしっかり図られている。話し合う活動を通じて、自分の考え深めたり広げたりできていると思う児童も大阪市平均より上まわっている。

質問番号 質問事項

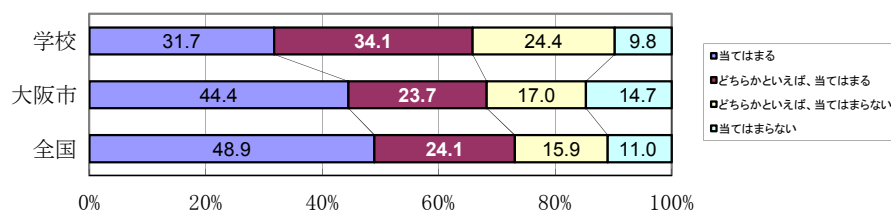
42

5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



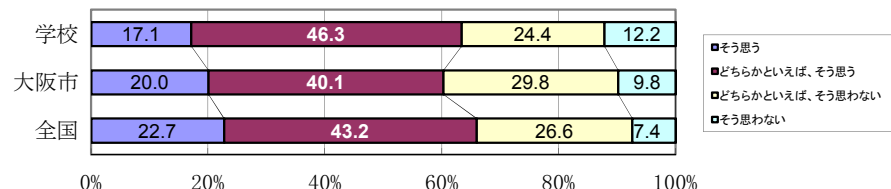
53

読書は好きですか



48

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

「言語活動の充実を通して思考力・判断力・表現力を高める ーきいて・考えて・言葉で表す授業の構築ー」を研究テーマとし、全校をあげて授業力向上に取り組んできており、日々の授業のなかで子どもたちの協働的な学びや、思考を深めるための学習サイクルを取り入れることができてきた。しかし、学習格差が高学年になるにつれて広がり二極化する傾向にあり、さらにきめ細かい指導が必要である。

今後の取組

各学年の段階に応じて、習熟度別少人数授業や補習などを取り入れて、学習の格差が広がらないようにしていきたい。また、さらなる言語活動の充実を図りながら、子どもたちの思考力・表現力を高め、教員の授業力を向上を目指していく。朝の読書活動や図書ボランティアによる読み聞かせ、時間割のなかで図書室の活用を位置づけ読書活動を推進していく。

学びの充実に向けて(2)

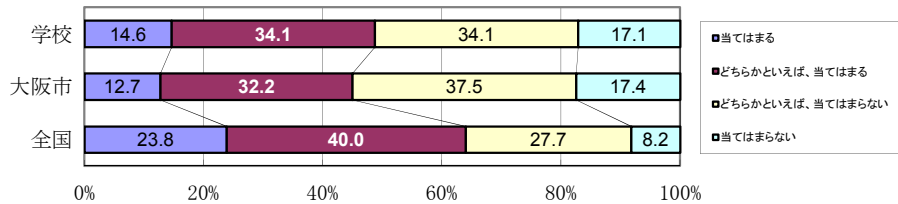
結果の概要

「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」などの学習活動については、大阪市平均よりは上まわっているが50%に満たない。「言語活動の充実を通して思考力・判断力・表現力を高めるーきいて・考えて・言葉で表す授業の構築ー」を研究テーマとして位置づけ、言語活動の充実を重視した授業を実践している。また、全校朝会での校長講話を100字作文にまとめる取り組みも行っている。

質問番号	質問事項
------	------

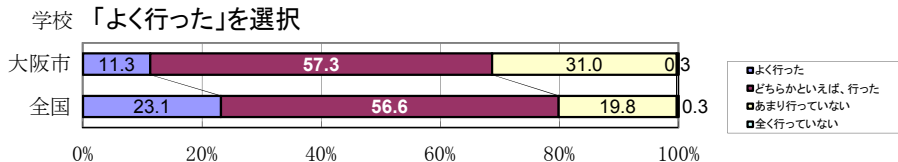
40

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



42【学校質問紙】

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



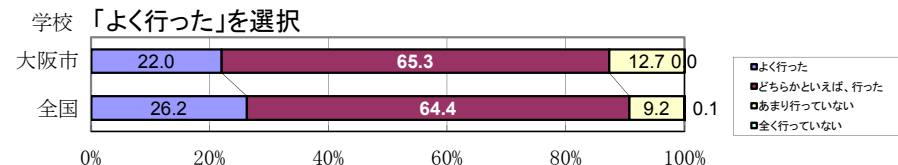
30【学校質問紙】

各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



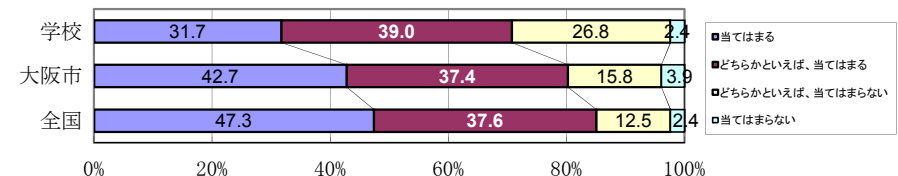
41【学校質問紙】

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43

5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題

言語活動の充実をめざした研究授業や授業研究を行い、取り組みが十分に実施され大きな成果を得ているが、話し合い活動の定着を目指して各学年段階に応じて計画的に進める必要がある。また、パソコン室や図書室を活用した調べ学習に取り組み、「総合的な学習の時間」で発表する活動も行っているが、さらに継続して計画的に実施していく必要がある。

今後の取組

「言語活動の充実を通して思考力・判断力・表現力を高めるーきいて・考えて・言葉で表す授業の構築ー」の研究実践を全校で推進し、さらに教員の授業力の向上を目指す。各教科、各領域、児童会、学校行事、全校朝会などあらゆる場面で、「きく、考える、表現する」活動を取り入れた指導を共通理解し、根気よく実践していく。

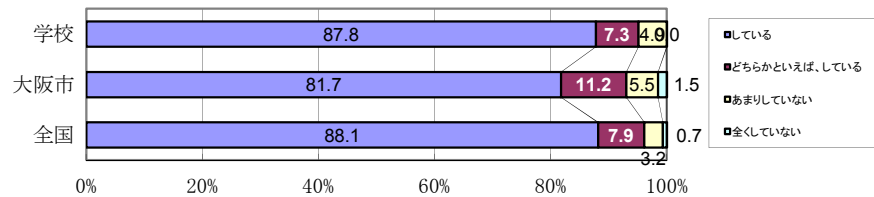
基本的生活習慣

結果の概要

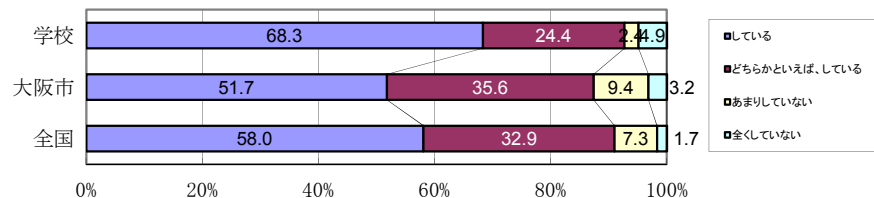
児童質問紙より、「朝食を毎日食べている」と答える児童が95.1%、「同じくらいの時刻に寝ている」が92.7%と、大阪市平均に比べて多く、毎日規則正しい生活をしている児童が多い。しかし、インターネットやゲームをしている割合は全国や大阪市よりも多く、時間の活用方法を考えさせる必要がある。

質問番号	質問事項
------	------

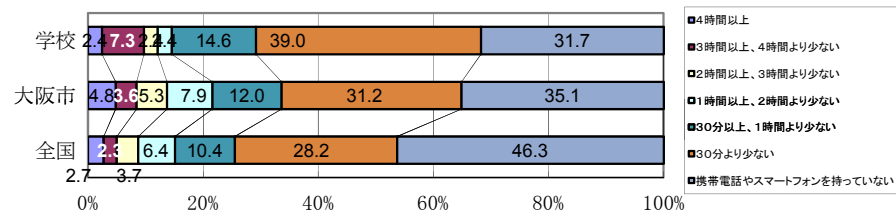
1
朝食を毎日食べていますか



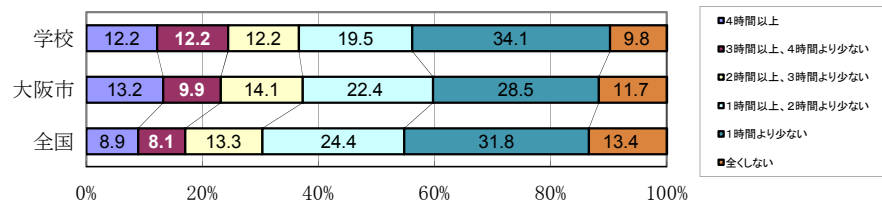
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

児童質問紙より、「学校に行くのは楽しい」と答える児童は97.6%もあり、全国平均に比べてもかなり高く、毎日の基本的生活習慣を整えて楽しく学校に通っている児童がほとんどであると言える。余暇の有効的な時間活用については、さらなる実態把握と各家庭との十分な連携を図る必要がある。

今後の取組

生活習慣の全校的な実態把握を実施し、各家庭との連携を図りながら、改善にむけた働きかけを推進していく。児童が自分自身の生活を振り返り考えられるように、授業や集会など、あらゆる場面を機会として取り組んでいく。

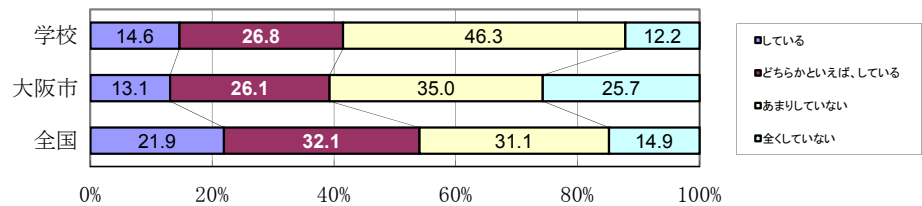
家庭学習

結果の概要

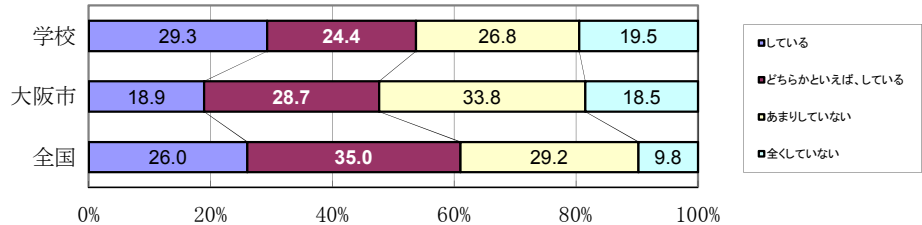
児童質問紙より、「学校の授業の復習をしているか」「家で計画を立てて勉強しているか」と答える児童は、大阪市平均よりやや上回っているものの、家庭での学習時間も1時間未満と答える児童が1／3もあり、全体として多いとは言えない。

質問番号	質問事項
------	------

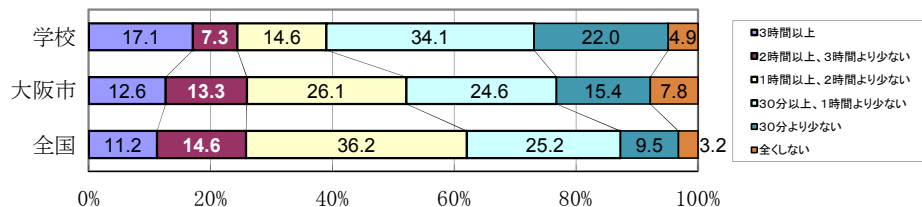
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

児童質問紙より、「家で授業の復習をしている」と答える児童は41.4%、「家で授業の予習をしている」と答える児童は43.9%で大阪市平均よりやや高い。ただし、「全くしていない」と答えた児童は少なく、学校での授業意識して家庭で学習していると思われる。学校の宿題については、放課後に学校ですませる児童も多く、自主的な家庭学習の定着が課題である。

今後の取組

家庭との連携を密にし、家庭学習の取り組み方について指導しながら、家庭学習の定着を推進する。宿題を確実に仕上げるように指導を徹底し、宿題以外にも復習や読書など、自分で考えた課題に取り組めるように指導していく。

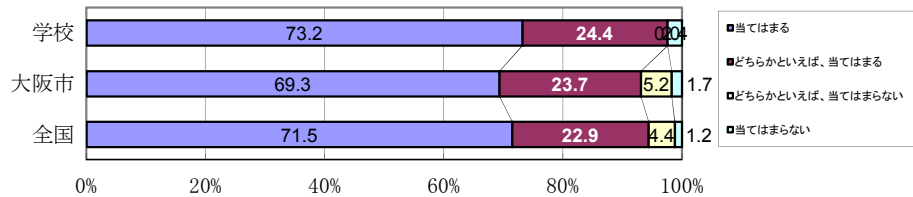
自尊感情・規範意識

結果の概要

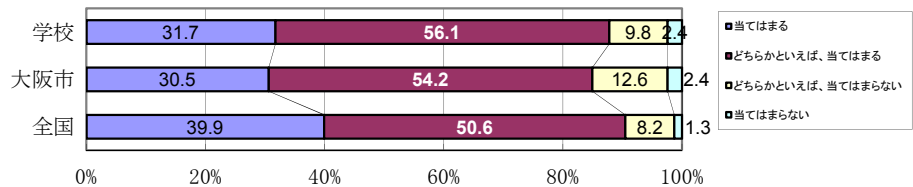
児童質問紙より、「自分にはよいところがあると思う」と答える児童は82.9%、「最後までやり遂げてうれしかった」は97.6%と全国平均よりかなり高い。また、「学校のきまりを守っている」も大阪市平均より高く、学校での規律はよく守られており、自尊感情についても高い値を示している。「先生はよいところを認めてくれる」と答える児童は90.2%と高い水準にある。

質問番号	質問事項
------	------

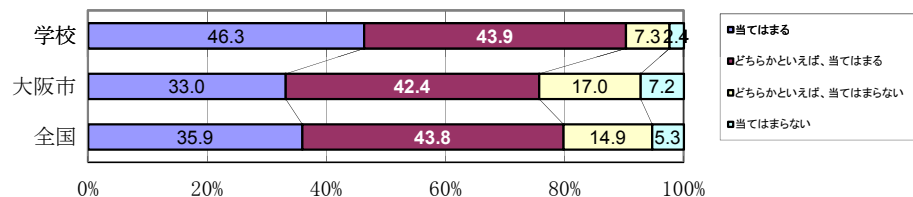
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



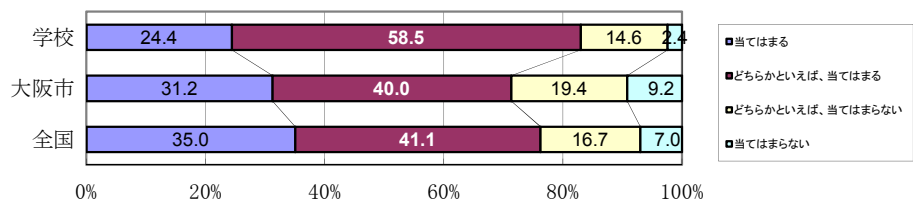
34
学校のきまりを守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

子ども達の自尊感情はかなり高い水準にある。委員会活動や縦割り班活動、学級活動を中心に、学年や学校全体の中で、互いに認め合い高め合う雰囲気ができており、学校全体で自尊感情を高める指導を行うことができる。さらに、自尊感情や規範意識を高めるために、子どもたちの自主性を大切し、教員による十分なサポート体制をしっかり作っていくことが必要である。

今後の取組

あらゆる機会を通じて、自他を尊重し、礼節をもち、思いやりの心をもつ望ましい集団育成に努め、一人一人のよさを伸ばす指導に努めます。また、生活習慣の全校的な実態把握を実施し、各家庭との連携を図りながら、改善にむけた働きかけを推進していく。

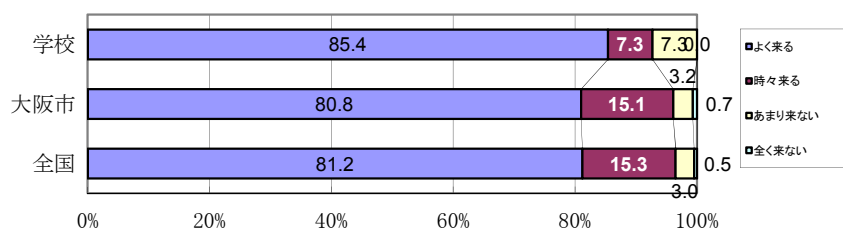
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

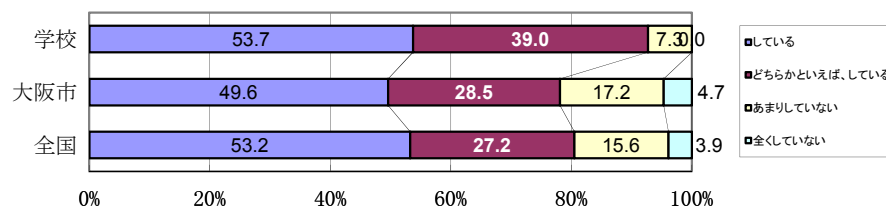
児童質問紙より、「家の人は学校の行事に来ますか」で「よく来る」と答える児童はかなり多いが、「あまり来ない」と答える児童も7.3%と多い。しかし「全く来ない」家庭はゼロである。「学校での出来事について話す」と答える児童は92.7%と、全国平均よりもかなり多い。地域や社会で起こっている問題などについての関心はうすく課題である。

質問番号	質問事項
------	------

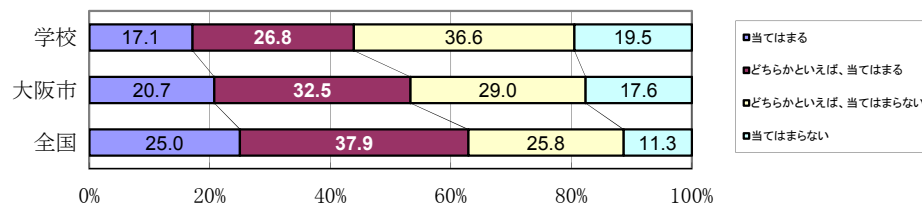
20
家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

ホームページの閲覧数は小規模学校にしては多く、ホームページによる毎日の学校教育の情報発信などが、家庭での会話につながっていると思われる。保護者や地域の学校教育への関心は高く協力的である。しかし、子どもたちの社会的出来事への関心が低く、日々の生活と関連づけて社会的事象について考える場づくりが必要である。

今後の取組

ホームページによる情報発信を充実させ、毎日の学校の様子がリアルタイムに実感でき、学校教育への関心を高めさせ、家庭での話題提供にさらに努める。保護者の協力をさらに得られるように、学校行事や土曜授業の工夫を重ねていく。また、ニュースや新聞などに興味をもたせ、日々の生活と関連づけて考えることができるように、全校朝会や授業で取り上げて指導にあたっていく。

学校組織の改善

結果の概要

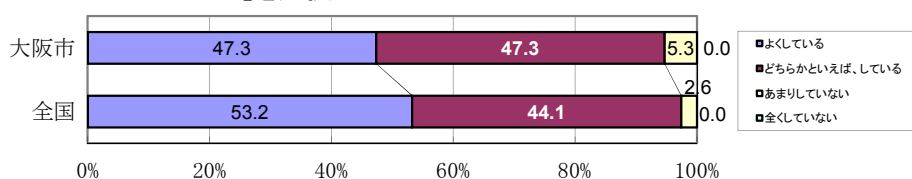
学校教育目標「自らよく考え学ぶ意欲と豊かな心を持ち、明るくねばり強く生きる子どもを育てる」の達成をめざし、学校教育活動の状況や課題を常に意識しながら組織的に実践している。また、全校をあげての組織的な研究体制を活性化させ、学校全体で言語活動の充実を通して、授業力を向上させる取り組みを実践している。

質問 番号	質問事項
----------	------

100【学校質問紙】

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

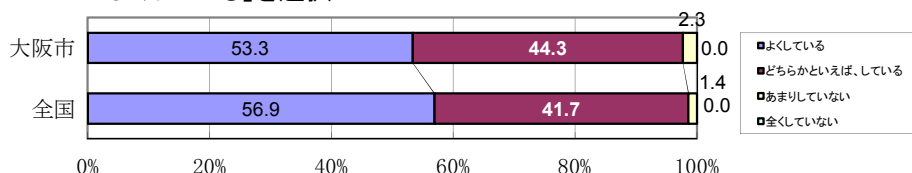
学校「よくしている」を選択



98【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

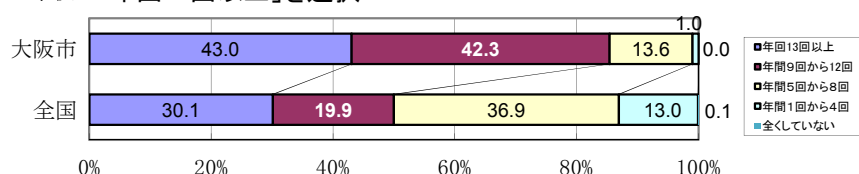
学校「よくしている」を選択



91【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校「年間13回以上」を選択



成果と課題

子どもたちの状況を全教職員で共有し指導にあたっている。学校運営のなかで課題として浮き彫りになった部分については、情報を共有し改善しながら学校教育を推進させている。スムーズに教育活動が実践できるよう、若手教員の計画的な育成が課題である。

今後の取組

保護者や地域の願いを把握し、全教職員で課題を共有し、迅速にニーズに応えることができるように取り組んでいく。さらに全校的な授業研究の体制をつくり、メンターを活用した若手教員の指導力向上を目指していく。